

言語活動を取り入れた授業実践

Google マップ上で最寄り駅から自宅までの道順を説明する

茨城県立東海高等学校 阿南 統久

今回の学習指導要領の改訂では、配慮すべき事項として「各教科等において言語活動を充実すること」が求められている。そこで言語活動を取り入れた授業実践について報告する。まず最寄り駅から自宅までの道順を、Google マップを用いて作成する。次にその地図を見ながら、相手にわかりやすく口頭で最寄り駅から自宅までの道順を説明するための文章を考えさせた。4人グループにし、実際に地図を見せながら説明し、他の班員が最寄り駅から本人の説明に従って、自宅までたどり着くかどうかの演習を行った。

1. はじめに

1.1 本校の特色

本校は全日制普通科、1学年4クラス、女子生徒の割合が多く、男女比は、約1:2の高校である。1年次から大学進学者向けコース(1クラス)を設置しており、卒業生の進路は、大学、短期大学、就職と幅広く、中でも専門学校の進学者が多い。落ちついた学習環境ときめ細やかな生徒指導を行っており、生徒の生活態度、および学力等も平均的な学校である。

1.2 本校の教科「情報」の状況

現在、1年生で「情報C」を連続時限で2単位履修している。情報専任の教諭が1名(現在の担当授業時数 情報8時間、数学5時間)おり、それと別教科の教諭1名(家庭科)に4時間(各クラス1時間)TTとして授業をサポートしてもらっている。教科書を用いた教室での座学と、パソコン室での実習を約1:2の割合で行っている。評価は、前後期2回の定期テストと、授業のレポート、夏休みの宿題等から行っている。

本年度は国立教育政策研究所から「学習指導実践研究協力校事業」の委嘱を受け、「教科『情報』における言語活動の導入とコミュニケーション能力の育成」について、研究課題として取り組んでいる。

なお、来年度より年次進行で、1年生で「社会と情報」2単位、3年生の選択科目として、「情報の科学」3単位を履修する。

2. 課題設定の理由

2.1 言語活動の充実

今回改訂では、言語活動の充実(総則第5款の5の(1))が重視されている。「生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動

を充実すること。」(抜粋)とある。特に、共通教科情報科においては、生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う学習活動を取り入れ、言語などを活用して、新たな情報を創り出したり、分かりやすく情報を表現したり、正しく伝達したり、他者と共同して問題を適切に解決したりするなどの学習活動を重視している。

2.2 「社会と情報」を見据えて

「社会と情報」の目標には、「情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的なコミュニケーションを行う能力を養い」という部分がある。また、内容の取扱いについての配慮事項として、体験的な学習の重視について、「情報手段の操作体験を十分に取入れたり、生徒にとって身近な生活場面と関連付けたりしながら指導することが極めて重要である。」とある。これらの2点を念頭に置きながら、本校生徒の実態にあった実習内容を考えた。

2.3 特に意識した点

特に意識した点は、思考力、判断力、表現力等をはぐくむ学習活動の例として、「⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」という部分である。まずは自分の考えをまとめる。次に、講義や他人の考えを聞くことで、最初に自分が考えたものの問題点に気づき、改善すべき点が浮かびあがる。そして不備な点を修正することで、自分のものの見方や考え方が深化し、発展していく。そのようなプロセスを生徒に踏ませることが非常に大切だと考えている。

3. 課題・演習

3.1 概要

最寄り駅から自宅までの道順を、Google マップを用いて作成する。次にその地図を見ながら、相

手にわかりやすく口頭で最寄り駅から自宅までの道順を説明するための文章を考えさせた。4人グループにし、実際に地図を見せながら説明し、他の班員が最寄り駅から本人の説明に従って、自宅までたどり着くかどうかの演習を行った。最後に、解説をし、相手にわかりやすい説明をするために必要なことを生徒に考えさせてから、もう一度説明文を書き直させた。

なお、2時限で終わるように課題・演習内容を構成したつもりである。しかし、実際には3時限かかってしまった。生徒のコンピュータスキルや教員の指導方法が改善されれば解決できると思う。

3.2 情報機器や情報通信ネットワークの活用

ワークシートに、Google マップを利用して、最寄り駅から自宅までの地図を表示して貼り付ける作業をさせる。

- ア Google マップルート・乗換案内ー徒歩で行く を選択する
- イ Aに最寄り駅名ーBに自宅住所を入力する
- ウ 最寄り駅から自宅までの道順が表示される
- エ 道順上をドラックしてルートを変更する
- オ 最寄り駅から自宅までの距離と徒歩により所要時間を調べ、レポートに記入する
- カ PrintScreen キーを押す
- キ ペイントを起動し、画面を貼り付ける
- ク ツールボックスから選択を選び、地図を加工し、ワークシートに貼り付ける
- ケ Google マップに戻り、自宅のマーカーBを削除し、自宅がわからないようにした状態で駅から自宅までの地図を印刷する。

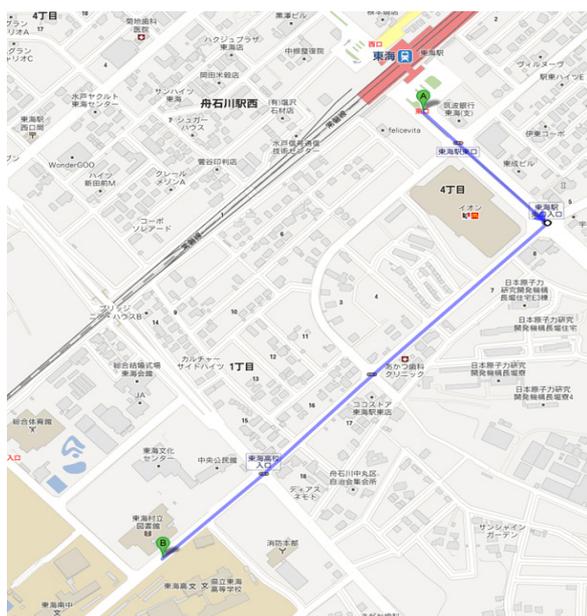


図1 東海駅から東海高校までの地図

3.3 言語活動

3.3.1 生徒自身の考えを主体的にまとめる

- ア 印刷した地図を見ながら、口頭で説明する文を考える

3.3.2 グループ内の班員に発表する

- ア 出席番号の若い順から説明を始める
- イ 地図を机の真ん中に置き、各班員の指を駅に置いてもらう
- ウ 口頭説明にあわせて、指を動かしながら自宅を探す
- エ 説明が終わったら、正解を発表する
- オ 何人がたどりついたか記入し、次の人へ

3.3.3 振りかえり（討議も含む）

- ア わかりやすい道案内仕方⁽¹⁾
 - a 全体図をイメージさせる位置、方向感覚を示す。
(例) 駅から南西に徒歩10分の距離
 - b 記憶に残るポイントを示す
わかりやすい特徴物を絞り込む
(例) ショッピングセンターの角を右折
 - c その時の状況にあわせる
説明する状況に応じて臨機応変に対応
(例) 東海南中学校と間違わないように
- イ 相手をよく見て説明する。
 - a 相手の表情（視線）を見る
自分の説明にうなずいてくれているか
説明を理解できず表情が曇っていないか
 - b 相手の動き（態度）を見る
自分の説明通り指を動かしているか
積極的に説明を聞こうとしているか
- ウ 相手にわかりやすい説明にするために必要なことを考え、討議し、レポートに記入する
- エ 解説や討議を踏まえ、もう一度口頭説明文を書き直す

3.4 評価

- ア 授業の感想、自己評価を書く

4. まとめ

授業では、教員側の指導方法で改善すべき点が多く見つかった。全国大会では実際の生徒のレポートを見ながら、色々な先生方からアドバイスをいただけたらと思います。なお、この演習はストーリービューを使えるともっと面白いはず。

参考文献

- (1) 誰でも必ず納得！上手な説明の仕方, 神岡真司, 日本文芸社 (平成21年)